

符津小学校だより

令和3年 5月号

小松市立符津小学校

校長 後藤 修平

TEL 0761-44-2596

FAX 0761-44-5973

子どもたちの頑張りでいいスタートが切れました！

～自慢の学校とするために、自分たちで出来ること～

新年度に入って1ヶ月が過ぎました。今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、参加者を限定しての入学式・授業参観、中止となった育友会総会など、例年と同じように実施できないこともありました。でも、このような状況の中で、子どもたちは実にいい動きを見せてくれています。その原動力となっているのが、4月号でもお知らせした「符津小学校を自慢の学校にしよう」という昨年度からの取組です。

まず、6年生が新1年生へのお世話（玄関から座席に座るまでの手助け）に加えて、今年度の新しい試みとして、朝の時間を使って鬼ごっこをして遊んであげていました。これは、1年生の緊張をとり、早く仲良くなりたいという6年生の思いから出たアイデアです。5年生も1年生に本の読み聞かせをする活動に挑戦していました。そのような温かい応援もあり、新1年生も順調に学校生活に慣れ、4月からいいスタートをきることができました。

また、高学年だけでなく、毎朝、2年生には清掃活動、3年生には校門前での挨拶運動に取り組んでくれる子どもたちもいます。このように4月から、自分たちで考え、自発的に行動する姿をいくつも見ることができ、とても頼もしく感じています。



全校で行った木場潟への春の遠足！ ～体験から学んだこと～

4月27日（火）は春の遠足。今年は全校で木場潟公園に行きました。この遠足での行動は全て縦割りグループでした。各グループに先生はついていっているものの、学校を出発してから戻ってくるまで、その企画と運営は、高学年の子どもたちに任せて実施することにしました。

木場潟までの行き帰りの歩き方、木場潟公園で行うゲームやスポーツの内容、昼食や休憩の取り方など、5・6年生がリーダー役となり、グループのみんなを引っ張ります。どのグループからもたくさんの笑顔が溢れ、異学年の友だちと一緒に楽しそうに活動する姿を見ることができ、「全校が仲良くなろう」という春の遠足の目標は十分に達成できたようです。

また、それだけでなく、5年生と6年生は、みんなを集合させて人数を確認したり、ゲームのルールをわかりやすく説明したり、困っている子には声をかけたりと、リーダーとなることの大変さをこの体験で実感できたと思います。3年生と4年生は、頑張っている高学年の姿を見て応援する行動をしたり、1・2年生の様子を気にかけてたりとフォローシップの方法を見つけてくれた子どもたちもいたのではないかと思います。

このように豊かな体験を設定することができれば、子どもたちは色々なこと学ぶことができます。更に、体験で学んだことを実生活（学校や家庭）の場で生かすことができれば、子どもたちはやりがいを感じてどんどん成長してくれるはずです。

今年は「体験から学ぶ」をキーワードに、どの学年でも豊かな体験の場を多く設定していきたいと考えています。家庭や地域の皆様には、今後、子どもたちの活動に対してご支援・ご協力をお願いすることがあるかもしれません。その際は、よろしくお願いします。



住みやすい社会を自分たちの手でつくるために！～委員会活動の意義～

学校を小さな社会と考えると、各委員会は、会社（企業）と考えることができます。会社の使命は、人々に貢献することです。将来、子どもたちが大人になった時に、自分たちが協力して「より良い社会（符津校区）」をつくることに貢献できる力を小学生の頃から育てるために、本校では委員会活動の取組みを大切に考えています。

そのため、各委員会が自慢の符津小学校をつくるためにどんな活動を企画し、学校（教職員）にどんな要望を持っているかを話し合う場である「委員長会議」を毎月開いています。第1回の委員長会議では、「符津小の木を全校で選んで、校庭に植えたい。」「キャラクターの符津くんを活用するために、シールやはんこにしてほしい。」など、たくさんの要望が出てきました。

今年も子どもたちのやる気を感じる楽しみな始まりとなりました。

前期の委員長

運営委員会	6年	柳橋 琉生
園芸掲示委員会	6年	藪越 景虎
図書委員会	6年	岩城 柚葉
環境美化委員会	6年	浅井 結希
体育委員会	6年	桑名 鴻輔
保健委員会	6年	北岡 実桜
給食委員会	6年	和田 凱斗
放送委員会	6年	北口麗愛星

5月3日 符津小学校より子供歌舞伎「勸進帳」に2名出演しました。

四天王 片岡八郎 浅井結希 四天王 常陸防海尊 林 慶次郎

現在、YouTube 子供歌舞伎発表会（1部）で配信されています。ぜひ、ご覧ください。